令和７年度
安曇野市　農業・農村振興に関するアンケート調査
集計結果（概要版）

令和8年3月

安曇野市

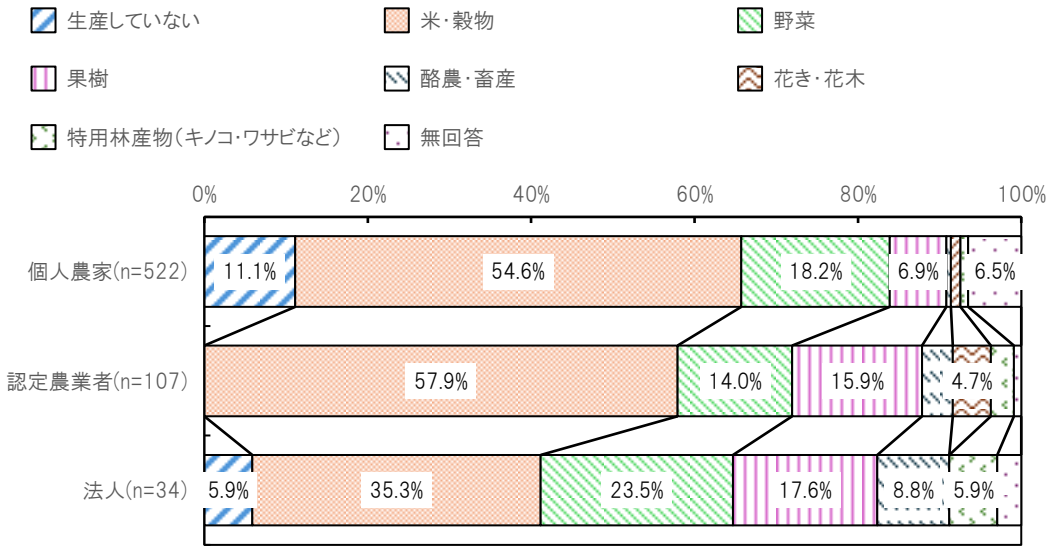
1. アンケート調査概要

調査対象	● 安曇野市で農業を営む個人農家 1,000 人（10a 以上の農地を耕作する者を農地基本台帳から無作為抽出） ● 安曇野市で農業を営む認定農業者 175 人 ● 安曇野市で農業を営む法人 69 社（回答は法人代表者を指定）
調査方法	郵送によりアンケート調査票を発送（回答は郵送またはインターネット）
調査期間	令和 7 年 11 月 26 日～12 月 31 日
回収結果	有効回答者数 ● 個人農家 522 人（回収率：52.2%） ● 認定農業者 107 人（回収率：61.1%） ● 法人 34 社（回収率：49.2%）
設問内容	回答者属性、10 年前から現在の農業経営の変化、現在の農業経営、今後の農業経営、今後の農業振興など

2. 調査結果のポイント

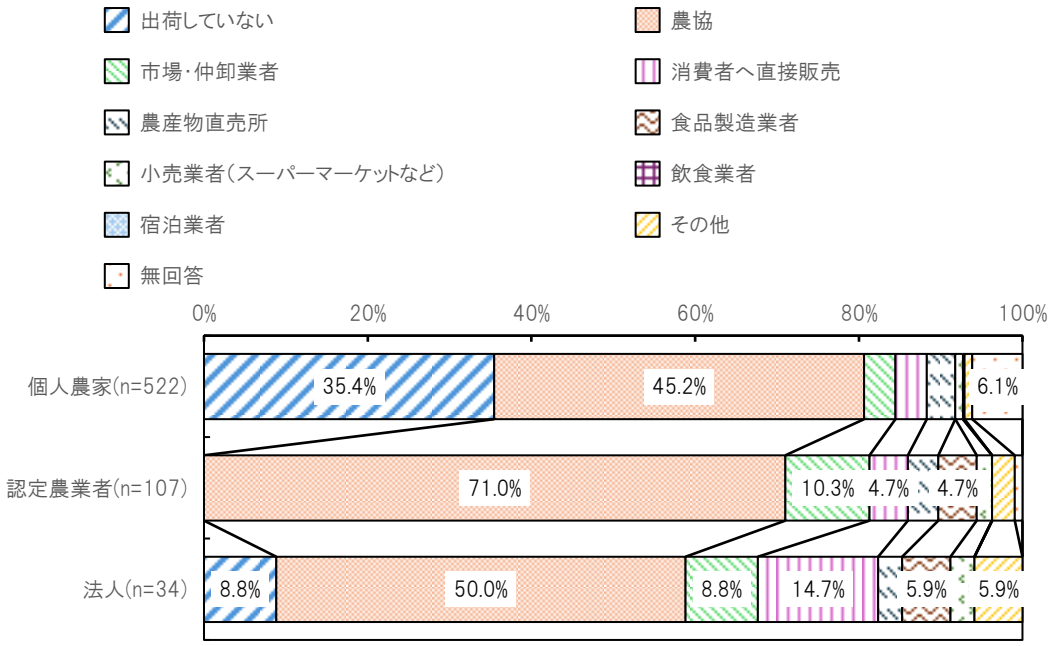
主な生産作物は米が首位、法人は野菜が増加傾向

・中心的な作物をみると、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても、「米・穀物」（個人農家 54.6%、認定農業者 57.9%、法人 35.3%）が最も高い割合を占めている。



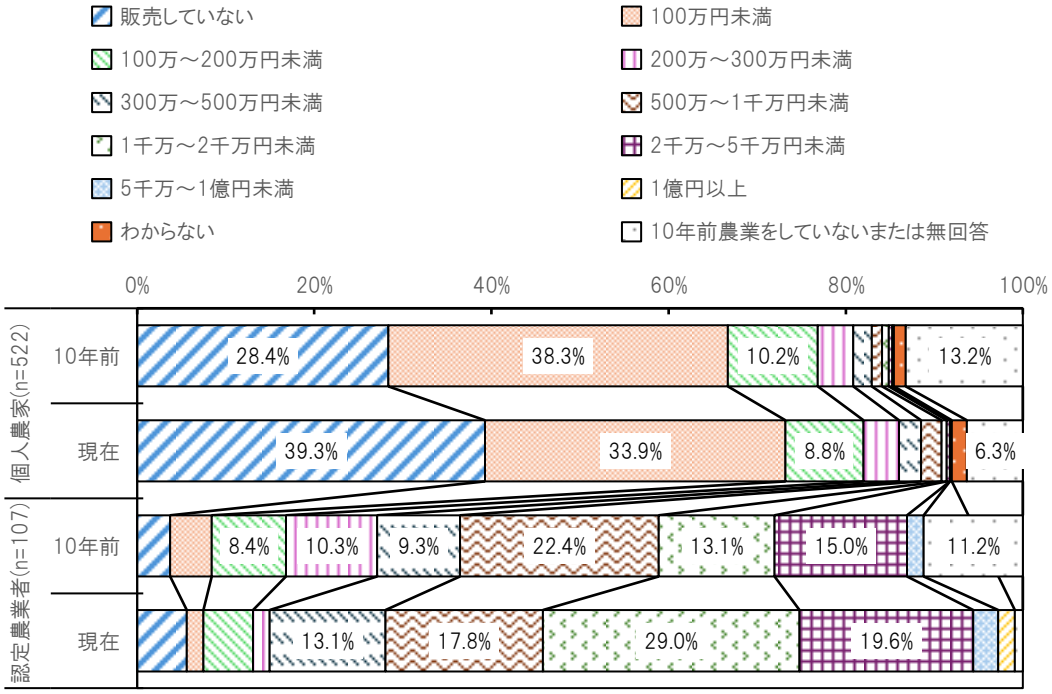
出荷先の 1 位は農協

・現在の出荷先をみると、1 位の割合が高かったのは個人農家、認定農業者、法人いずれにおいても「農協」となっている（個人農家 45.2%、認定農業者 71.0%、法人 50.0%）。



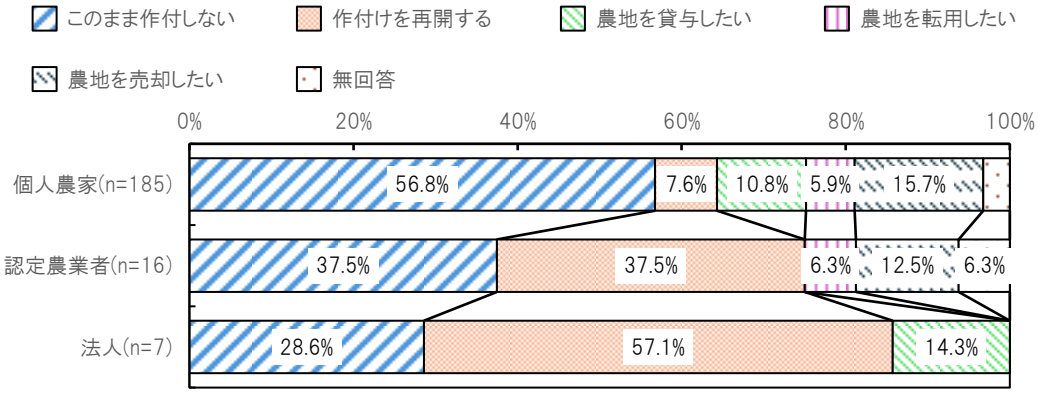
販売額で個人農家は販売していないが増えた一方で、認定農家は 1,000 万以上が増加

・販売金額を 10 年前と比較すると、個人農家では「販売していない」と回答した割合が約 10 ポイント増加している一方で、認定農業者では「1 千万円～2 千万円未満」または「2 千万円～5 千万円未満」と回答した割合が約 20 ポイント増加している。



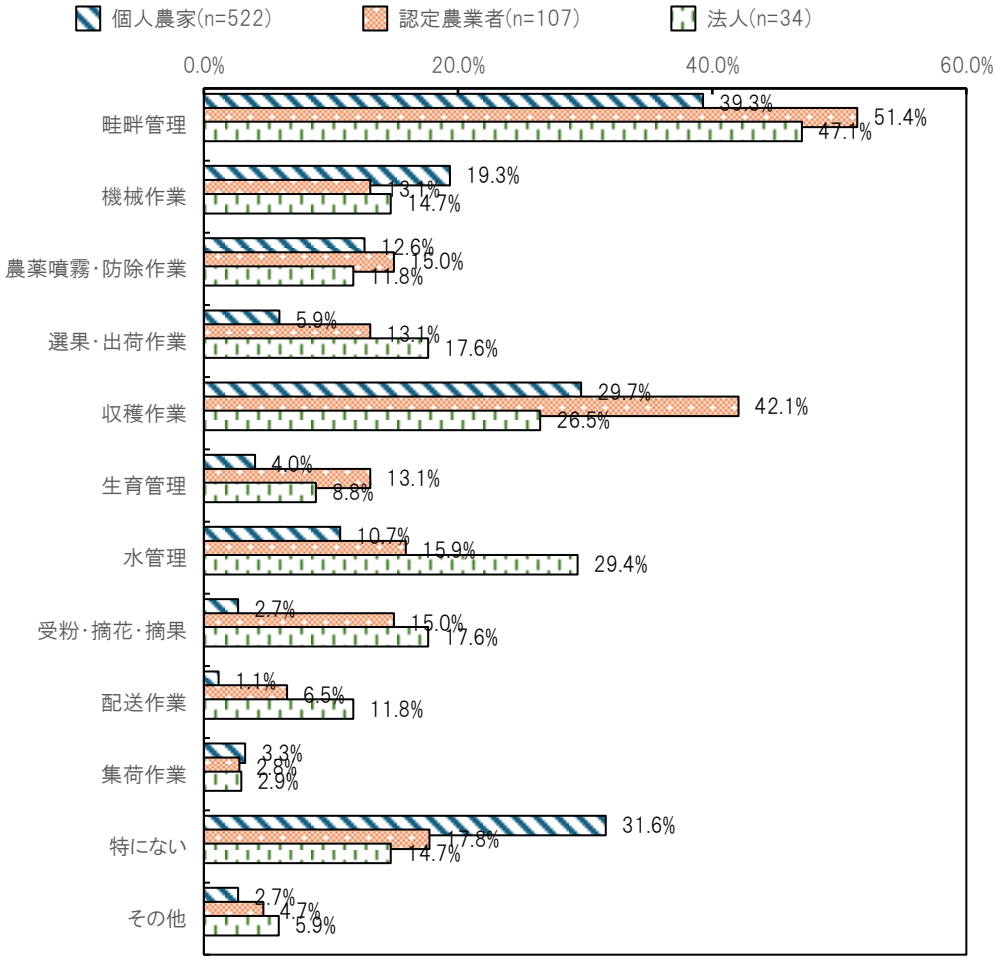
作付けしていない農地について個人農家の半分以上が作付けしない意向

・作付けをしていない農地が「ある」と回答した方の今後の利用意向をみると、個人農家では５割以上が「このまま作付けをしない」と回答している。



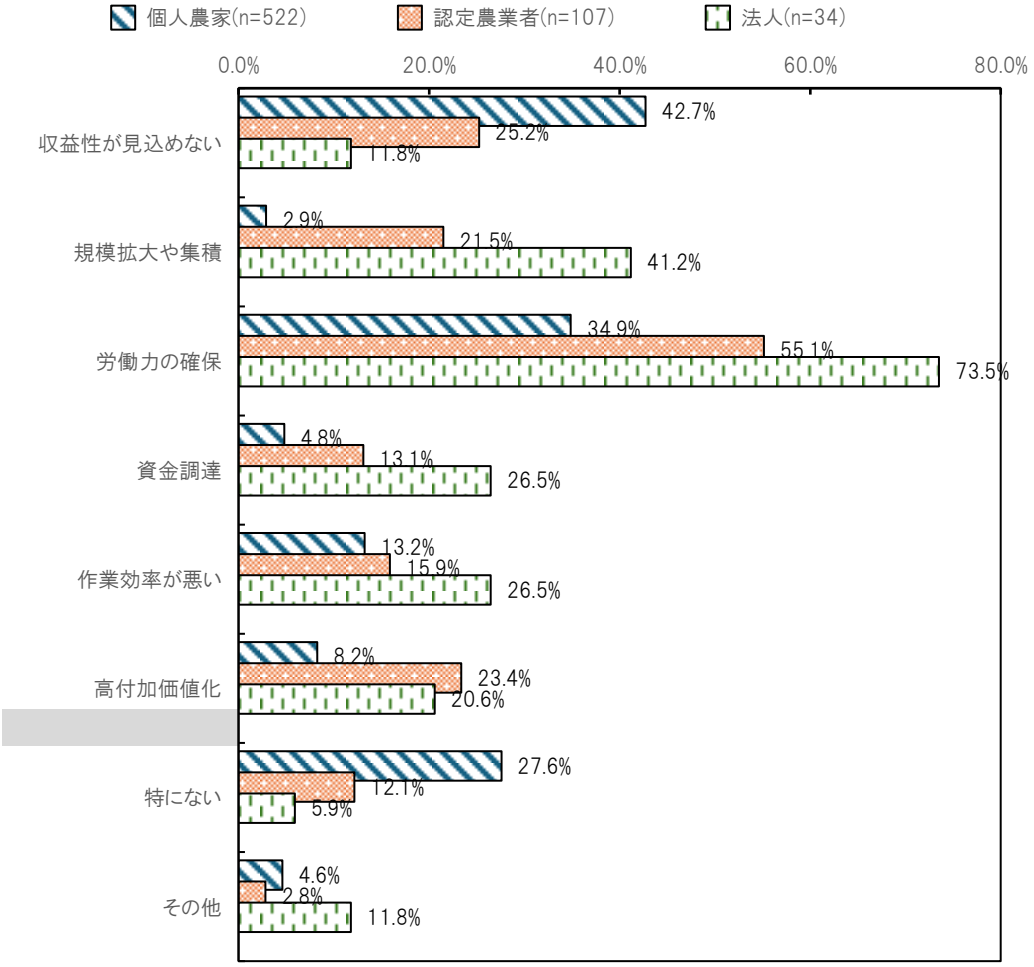
農作業でサポートが必要と感じるのは畦畔管理

・農作業の中でサポートが必要だと感じる作業（農作業について）では、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「畦畔管理」が最も高い割合となっている（個人農家 39.3%、認定農業者 51.4%、法人 47.1%）。



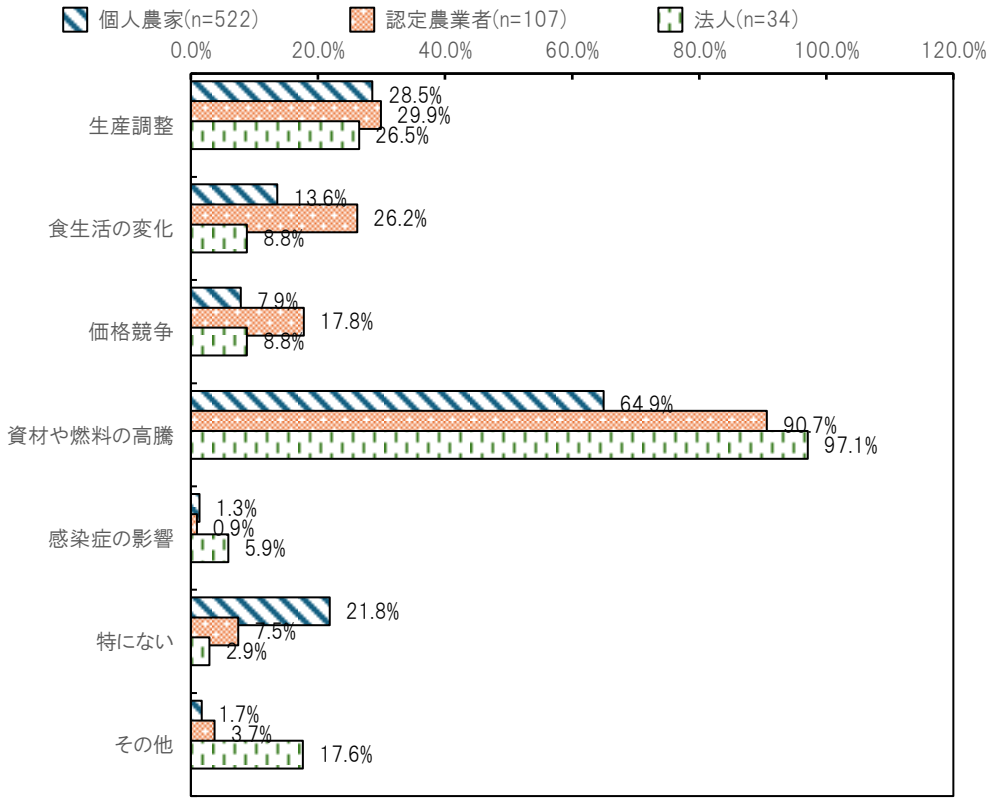
経営に関する課題は労働力確保が大きな割合を占める

・農業経営を続けていく上での課題（経営に関すること）では、認定農業者と法人は「労働力の確保」と回答した割合が最も高くなっている（認定農業者 55.1%、法人 73.5%）。



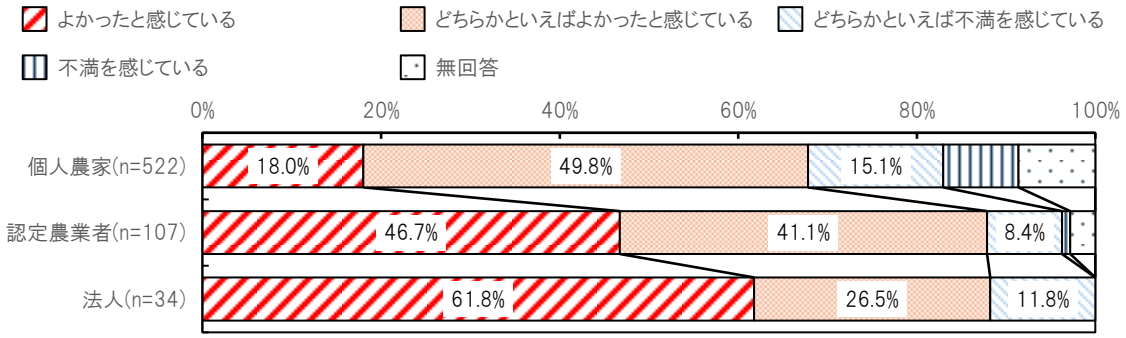
社会情勢への課題として最も意識されているのは物価高騰

・農業経営を続けていく上での課題（社会情勢に関すること）では、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「資材や燃料の高騰」（個人農家 64.9%、認定農業者 90.7%、法人 97.1%）が最も高くなっている。



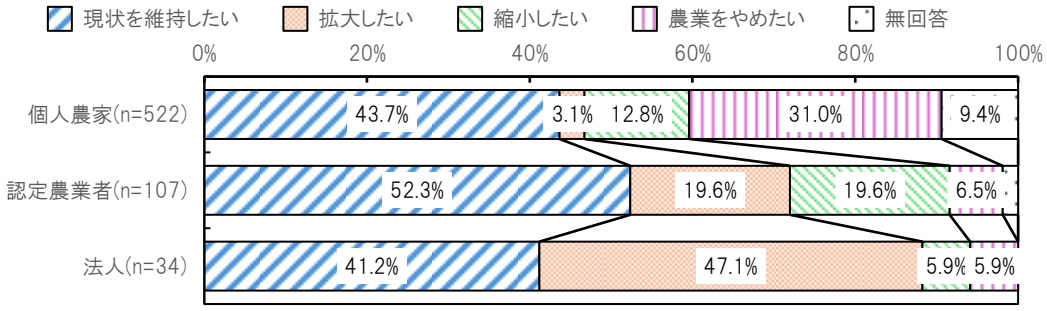
農業に携わっている満足度は全体的に前向きな回答

・農業に携わっていることへの満足度について、「よかったと感じている」または「どちらかといえばよかったと感じている」という前向きな回答が個人農家は 7 割弱、認定農業者と法人では 9 割弱になっており、全体的に前向きな傾向となっている。



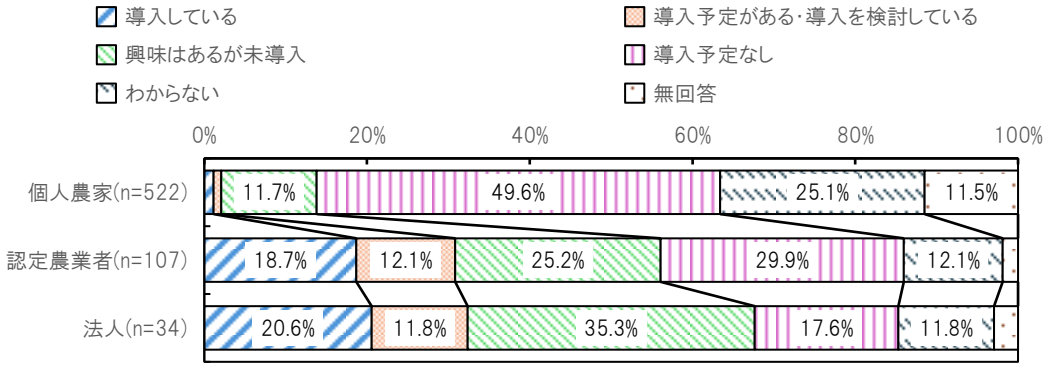
個人農家の 3 割が 10 年後に離農を考えている一方で、法人は半分近くが拡大希望

・10 年後の農業経営(経営規模)についての回答をみると、個人農家の約 3 割が「農業をやめたい」と回答している。一方で法人では「拡大したい」が 5 割弱となっており、経営規模への考え方は大きく異なっている。



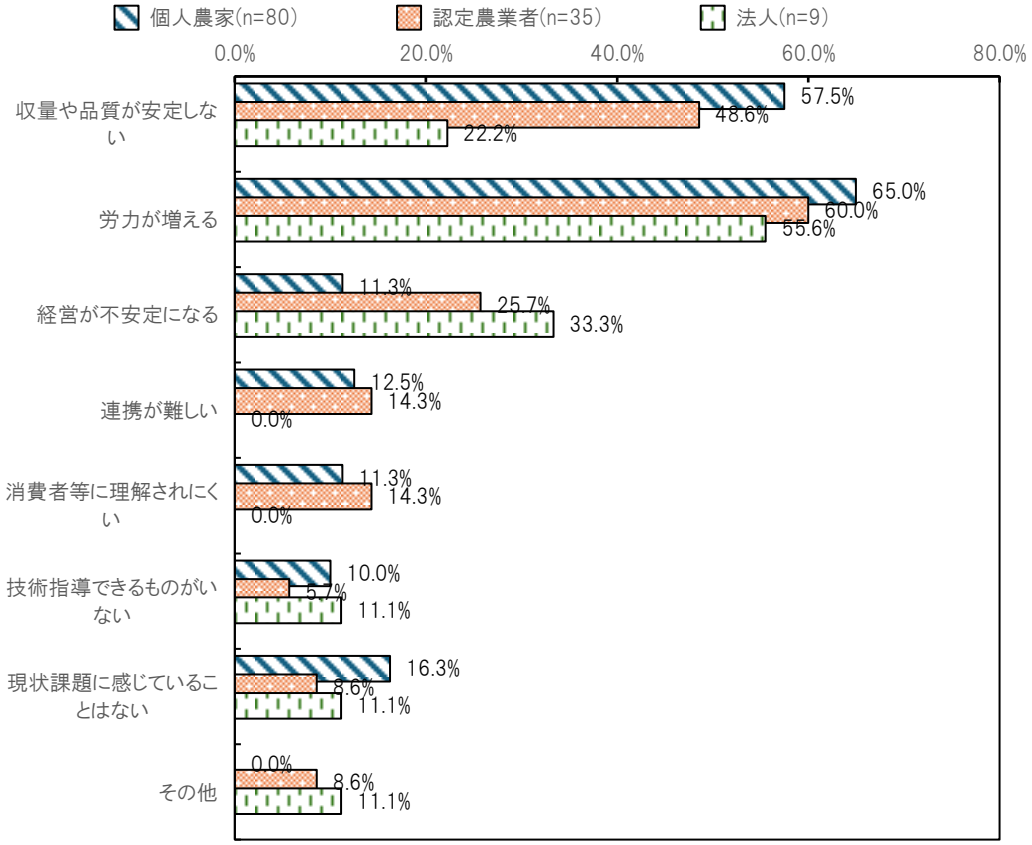
スマート農業は認定農業者と法人が関心高い

・スマート農業の導入状況について、認定農業者と法人では「導入している」が約2割となっている。また、認定農業者と法人では「導入予定がある・導入を検討している」または「興味はあるが未導入」というスマート農業に関心を寄せる回答が 4 割前後となっている。



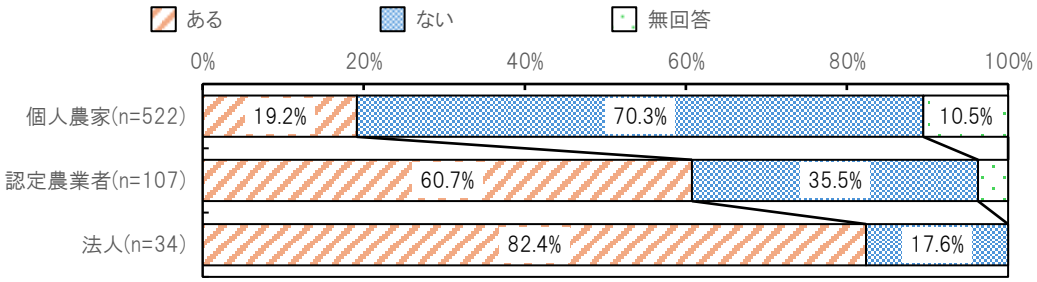
環境にやさしい農業に取り組む中での大きな課題は収量・品質と労務負担

・環境にやさしい農業に取り組む中での課題では、「収量や品質が安定しない」（個人農家 57.5%、認定農業者 48.6%）や「労力が増える」（個人農家 65.0%、認定農業者 60.0%、法人 55.6%）といった項目の回答割合が高くなっている。



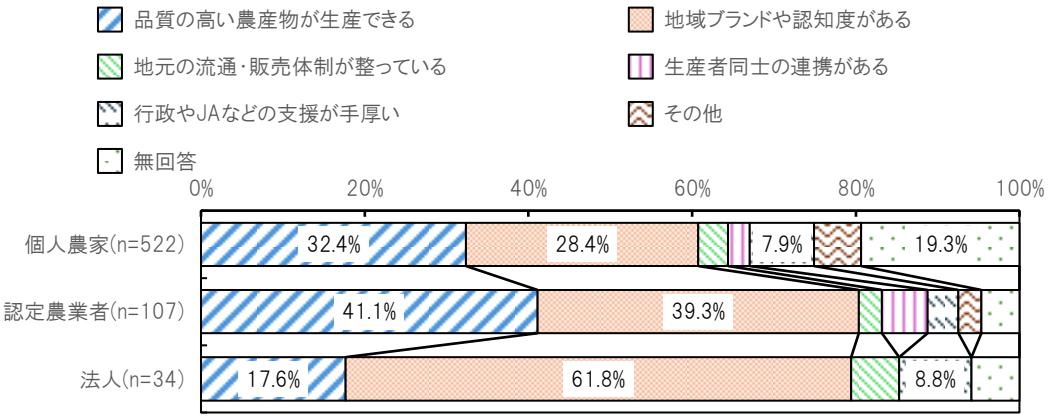
地産地消への取り組みは法人が 8 割超

・地産地消への取り組みについては、法人では 8 割超が「ある」と回答している。



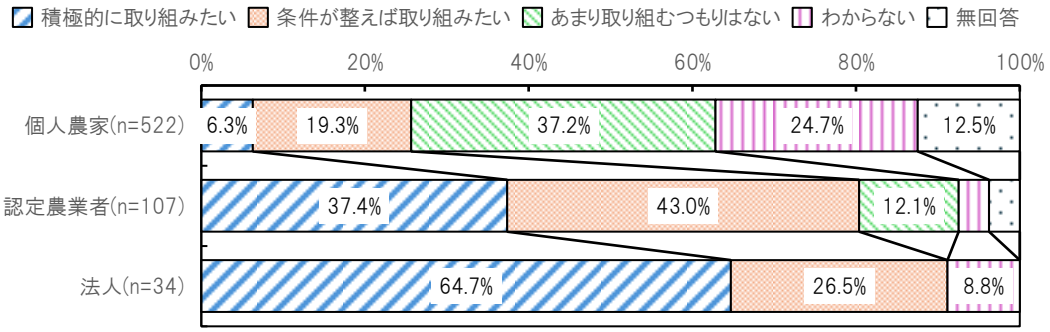
安曇野市の農業の強みは品質の高さと地域ブランド

・安曇野市の農業の最も大きな強みについては、個人農家と認定農業者では「品質の高い農産物が生産できる」(個人農家 32.4%、認定農業者 41.1%)、法人では「地域ブランドや認知度がある」(法人 61.8%)が最も高い割合となっている。



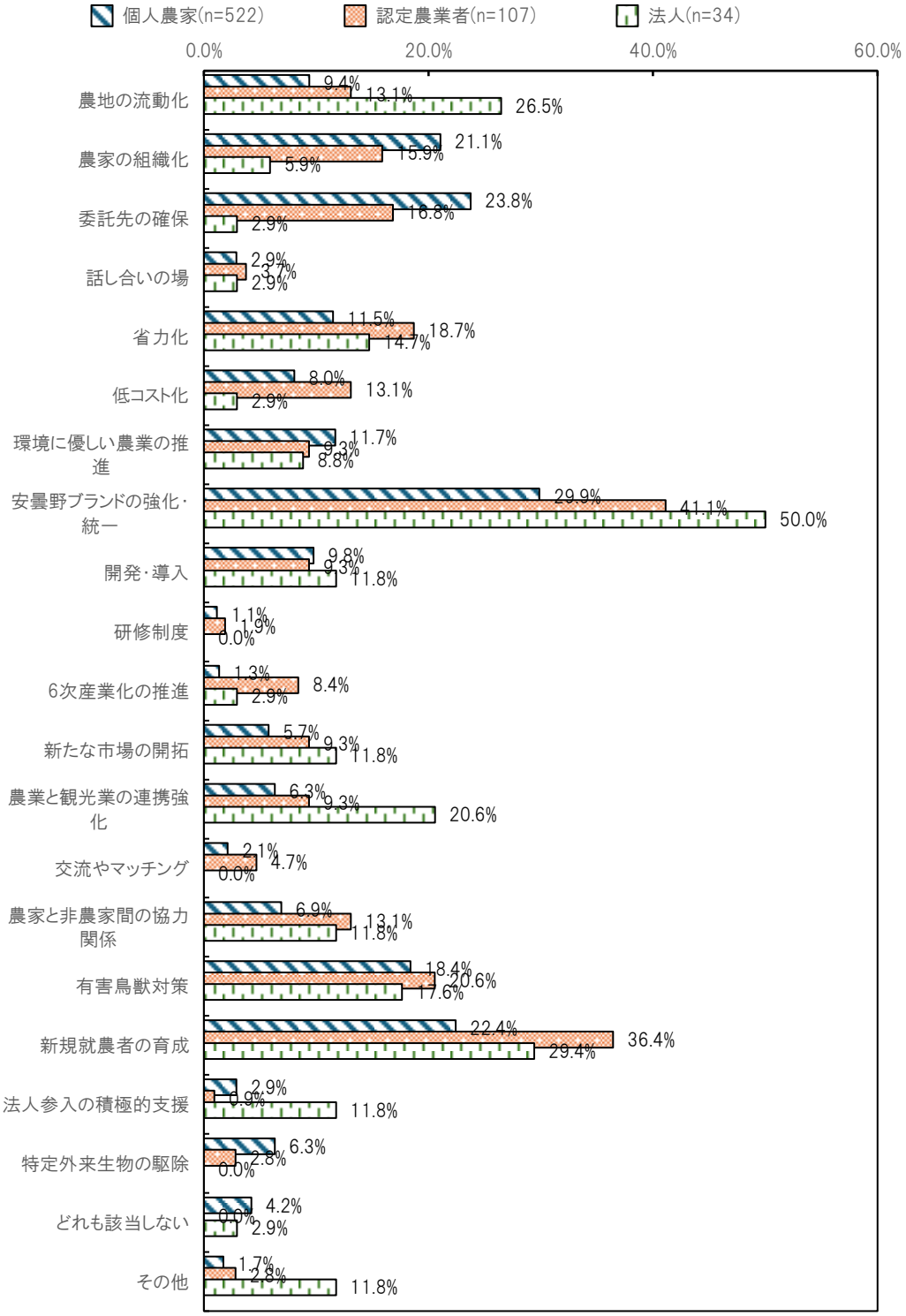
「生産力・品質・販売力の向上」への意欲は認定農業者と法人が高い傾向

・農業経営において「生産力・品質・販売力の向上」に取り組む意欲を問う設問では、「積極的に取り組みたい」や「条件が整えば取り組みたい」といった前向きな回答は、個人農家では約 25%に留まった一方で、認定農業者では約 80%、法人では約 90%となっており、「生産力・品質・販売力の向上」への意欲の高さが伺える。



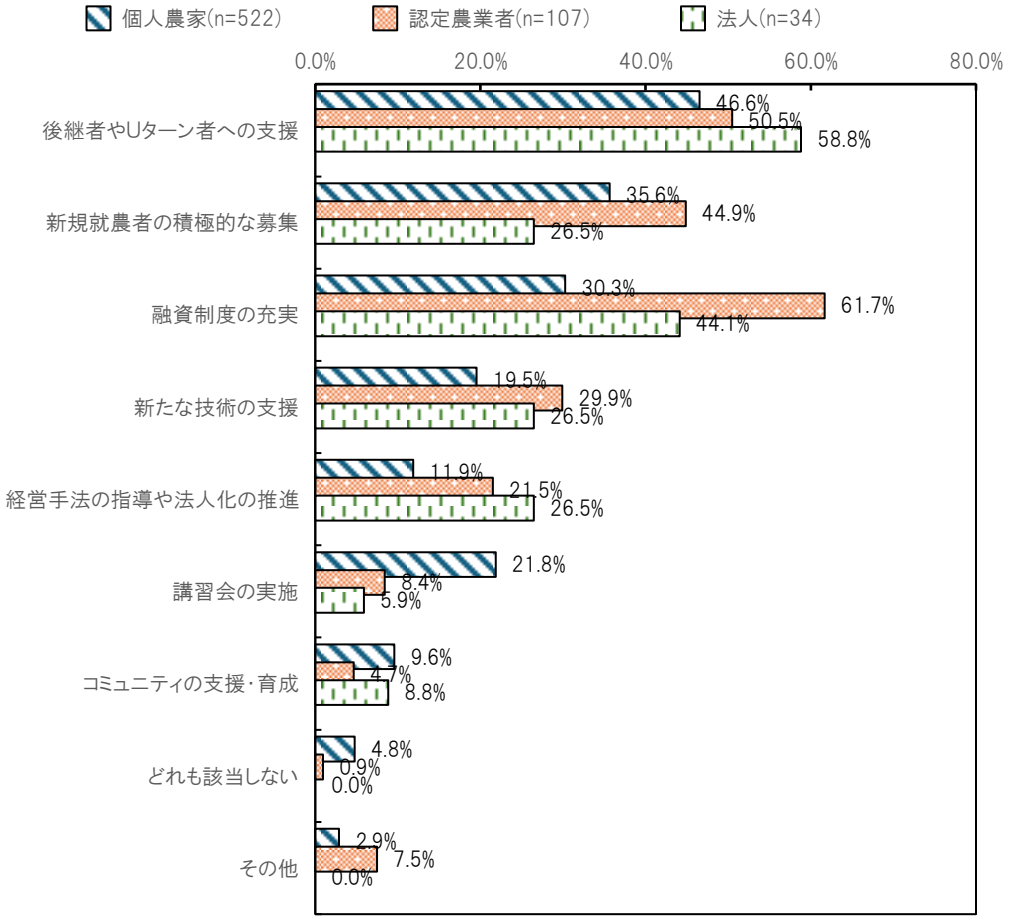
農業振興に重要なことは安曇野ブランドの強化・統一と新規就農者育成

・安曇野市の農業振興のために重要だと感じることでは、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「安曇野ブランドの強化・統一」が最も高い割合となっている（個人農家29.9%、認定農業者41.1%、法人50.0%）。認定農業者と法人では「新規就農者の育成」も高い割合を占めている（認定農業者 36.4%、法人 29.4%）。



新たな担い手確保・育成に必要なことは融資制度の充実と後継者や U ターン者への支援

・新たな農業者の担い手確保や育成を図るために必要だと感じることで、個人農家、認定農業者、法人のいずれかにおいて回答割合が５割を超えた項目は「融資制度の充実」（認定農業者 61.7%）と「後継者や U ターン者への支援」（認定農業者 50.5%、法人 58.8%）となっている。



農村らしさを生かしたまちづくりで必要なのは農村風景や景観の維持

・農村らしさを生かしたまちづくりで必要なことでは、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「農村風景や景観の維持」が最も高い割合を占めている（個人農家 58.0%、認定農業者 69.2%、法人 73.5%）。